

JICA 中国事務所ニュース

2010年8月号

【トピックス】

- ◎ JICA 長期研修員同窓会学術成果報告会を開催 2

【ニュース】

- ◎ 国際私法に関する法整備を目指して 3
◎ 「JICA ボランティア写真展」開催中 3
◎ 世界のみんなが笑顔になれるように 4
◎ 食品安全の国内研修 5
◎ 子供達の健康を守る 6

- 【寄稿コーナー】 7

- 【赴任者コーナー】 8

- 【China Cool】 8



初めての学術報告会に参集した同窓会の皆さん

皆様からのご感想やコメントをお待ちしております。

編集室担当：shenxiaojing.cn@jica.go.jp

- <http://www.jica.go.jp/china/office/others/newsletter/index.html> (中国事務所ニュース)
- <http://j.people.com.cn/99005/index.html> (ボランティア活動)
- <http://searchina.ne.jp/jica> (サーチナ JICA ページ)

トピックス

JICA 長期研修員同窓会学術成果報告会を開催 ～低炭素経済と持続的発展をテーマに～



低炭素経済をめぐる討議するセミナー参加者達

7月24日(木)、「JICA 長期研修員同窓会学術成果報告会—低炭素経済と持続的発展セミナー」が上海で開催されました。同窓会に加え、科技部関係機関、環境保護関係機関、帰国研修員、当事務所関係者ら、合計40名が同セミナーに出席しました。

同窓会は2007年3月3日に設立され、現在、会員は87名になっています。それらの長期研修員は帰国後も、各分野で引き続き研究を深め、日本で得た知識や経験を行政や学術面で活かしています。これまでも、同窓会会員の努力により、各種の公益活動、学術交流活動、ODA 広報活動、等を行ってきましたが、今回のように、北京以外の地域で、「低炭素経済と持続的発展」という専門的なテーマをめぐるセミナーを行うのは初めての試みとなりました。

セミナーの冒頭、当事務所岡田実次長及び中国科学技術交流センター赫文平副主任より同窓会の発展とセミナーの開催に祝意が寄せられた後、同窓会8名の代表から、それぞれの専門や従事している業務内容に合わせて、報告が行われました。報告の内容は、温室ガス排出量の減少、気候変動に対する

有効な対応、発展と環境保護が Win-Win 関係を保ちながら、持続的発展するための技術革新、制度革新、産業モデルチェンジ、新エネルギー開発等多彩であり、社会科学、自然科学双方の視点から活発な意見交換が行われました。

また、同窓会の代表に加え、上海駐在北九州市経済事務所の岩田健所長から「北九州市の環境政策」、当事務所の木下真人企画調査員から「低炭素社会を目指して～JICA と共に豊かな未来を～」の講演も行われ、日本の経験、知見が紹介されました。

今回のセミナーを企画・実施した同窓会の馮文猛理事長は「本日のセミナーは一つの試みとして非常に成功したと言えます。私達は低炭素分野の専門家ではありませんが、衆知を集めて有益な意見を広く吸収し、それぞれの視角から分析を行うことができます。私達はJICAの長期研修員として、二つの使命があります。一つは、帰国後、我々のほとんどが公的機関、研究機関に勤めていますが、仕事を通じ、中国の経済・社会の発展、課題解決、国民生活水準向上のため、あらゆる努力をすることです。それは我々の社会責任です。二つ目は、日本留学経験を持つ長期研修員として、日中両国の友情と協力の架け橋として役割を果たすことです。各種の機会を利用して、協力や研究の機会を作り、日本との交流を深めるよう一緒に頑張りましょう。」と語りました。

今後、この同窓会の機能を一層活かして、研修員間、研修員とJICA、研修員と日本社会の連携を一層強め、日中両国各分野の交流・協力を促進することが期待されています。

(所員 李瑾)

国際私法に関する法整備を目指して ～民事訴訟法・仲裁法改善プロジェクト訪日研修を実施～



北京で行ったセミナーの様子

今年7月12日から22日にかけて、民法室(全国人民代表大会常務委員会法制工作委員会民法室)、最高人民法院等のメンバーを参加者として、国際私法に関する研修が日本で行われました。国際私法については、3月にも北京でセミナーを行っており、今回が2回目となります。

国際私法とは、国によってその意味する範囲が異なる場合もありますが、簡単に言うと、異なる法律を持つ複数の国(地域)が関係する民事紛争において、どの国(地域)の法律を適用するかということに関わる法分野です。

例えば、17歳の中国人女性が日本で日本人男性と結婚した場合、このような結婚は有効でしょうか。日本の民法では男性は18歳、女性は16歳になれば結婚することができますが、中国の婚姻法では男性は22歳、女性は20歳にならないと結婚できないとされています。したがって、この婚姻が有効かどうか



セミナー参加者の集合写真

かが争われる場合、日本法を適用するか中国法を適用するかで結論が異なってくることとなりますが、中国の裁判所で裁判が行われる場合は中国の国際私法に関する規定によってこの点が決められることとなります。

中国の現行法にも国際私法に関する規定はあるのですが、中国ではこのたび民法整備の一環として「涉外民事関係法律適用法」という新しい法律を作って国際私法に関する規定を整備することを目指しています。

日本では明治以降100年にわたり「法例」という法律が国際紛争の法律適用問題について規律していましたが、2006年の「法の適用に関する通則法」の成立によって刷新されました。研修ではこの法律の成立に関与した先生方を中心に講義及び意見交換がなされ、活発な議論が行われました。

(長期専門家 住田尚之)

「JICA ボランティア写真展」開催中！

北京市内の人気観光スポット「南鑼鼓巷」の近くで『JICA ボランティア写真展』が開催されています。これは、JICA ボランティア(青年海外協力隊・シニア海外ボランティア)が、中国での活動を写真を通じてたくさんの方に知ってもらいたいという思いから開催しているものです。

現在中国では62名のJICA ボランティアが全国各地で活躍しています。活動中の様子はもちろん、活動している地方の様子、地元住民の方とのふれあいの様子なども写真も展示中です。ぜひ、ご覧ください。

■場所 文鳥カフェ(10:00—18:00)

住所 北京市東城区前園恩寺胡同 14 号

電話 8402—1138

■期間 9 月 30 日まで

■料金 無料(文鳥カフェさんから無料で会場を提供していただいています)。



ボランティア隊員の活動写真

世界の皆さんが笑顔になれるように ～香港日本人学校での出前講座～



熱心に話を聴く生徒たち

「・・・最も印象に残っているのは『世界がもし 100 人の村だったら』です。豊かな国と貧しい国は同じ約 2 割であるのに、富はかなりの差があることがショックでした。私にもできることをやりたいと思いました。」
「・・・JICA のことをたくさん知れてうれしかったです。貧しい国、貧しくない国、不公平でひどいなと思いました。すべての国が平等だったら争いは起きないのにと感じました。」
「・・・貧しい国の子どもの笑顔が心に残りました」

これは香港日本人学校中学部 1 年生から届いた感想メモの一部です。7 月 14 日、臣川調整員と私は香港日本人学校からの依頼を受け、中学部 1～3 年生計約 250 人に対し、出前講座を行ってきました。



沢山の感想メモが届きました

私の担当した 1 年生のクラスでは、まず世界の現状を体感してもらおうと、『世界がもし 100 人の村だったら』というワークショップを行いました。香港日本人学校 1 年生を現在の地球上の人々に見立て、そしてそれが 1 つの村の人々だったとして、発展途上地域に住む人、先進地域に住む人に分かれてみたり、豊かな層、中間層、貧しい層に分かれた上で、世界の富(チョコレート)分配してみたりしたのです。富の分配では、20%の豊かな人に全体の 80%以上のチョコレートが、同じく 20%の貧しい人には 1.6%のチョコレートしかないという結果に対し、豊かな層の子どもたちに感想を聞いたところ、「やったー！！」「ここにいってよかった！！」という、想定外の反応が返って

きて授業中には戸惑ってしまいましたが(貧しい人に分けよう、という反応を期待していたのでした)、後日送付された感想を見ると、「富のたくさんあるところは喜んでいてよかったのか」という感想もあり、実際感じてくれていることはあったのだと安心しました。

北京や香港という海外にいても、世界のことに関心のある子どもはまだ多くありません。グローバル化しているこの世界を担っていく子どもたちには、小さ

いうちから世界に目を向け、世界の現状を知り、自分もそんな世界の一員であるということを感じてほしいと思います。

「世界のみんなが笑顔になれるようにがんばってください。」彼等が残してくれたメッセージに私も元気をたくさんもらいました。これからも中国全土に馳せ参じます。関心のある方、是非お声がけください！

(所員 倉科和子)

食品安全の国内研修

日本食品安全法規和管理体系培训班

2010.7.28 福州



「食品安全プロジェクト研修開講式(福建省)」

福建省で7月26日に「食品安全管理プロジェクト」の研修を実施しました。

研修員は各省で日本向け輸出入検疫を担当する行政官101名で、日本の厚生労働省から3名の講師を迎え日本の検疫制度や食品安全基準を学びました。

福建省は昔から金魚の産地として有名ですが、その養殖技術を活用し今では年間約50万食分の鰻を日本に輸出しています。日本の輸入鰻の85%が中国産です。そもそも日本人の食事は「主食はアメリカから、おかずは中国から」といわれ輸入食品に依存しています。中国からの輸入件数は全体の26.7%を占め、国別ではトップです。

中国では消費者の厳しい目を受け止めようと2009

年2月に食品安全法を制定しました。JICAは2009年2月から「食品安全管理体制強化プロジェクト」を実施し食品安全法に関連する技術的支援を行っています。

今年5月31日には日中首脳会談にて「日中食品安全推進イニシアティブ」を締結しました。イニシアティブでは技術研修の推進を掲げ、今回の研修もここに位置づけられます。8月9日からは北京でも研修を実施し、日本向け輸出品の残留農薬検査方法について理解を深める予定です。(所員 林伸江)

子ども達の健康を守る！ ～保健と教育のコラボレーションによるワークショップを開催～

「ワクチン予防可能感染症のサーベイランス及びコントロールプロジェクト」では、予防接種事業を強化・改善し子ども達の健康を守ることを目的に、甘肅省、寧夏回族自治区、江西省、四川省、新疆ウイグル自治区の5省をパイロット県として活動を展開しています。

中国では、CCDC(中国疾病予防コントロールセンター)並びに我が国を含む国際機関の熱心な取り組みによって感染症の予防に成果をあげてきましたが、麻疹に対する対策は遅れ、未だに国際機関が目指すゴールにははるかに達しない状況にあります。

遅れている理由はいろいろ考えられますが、我々は、中国の子ども達に義務付けられている「予防接種証」に注目し、入園・入学時に予防接種の有無をチェックし、未接種者には捕捉接種することで接種率をあげることに取り組むことにしました。この事業は、衛生側だけで実施できることではなく、教育側との協働作業です。衛生側は教育側をトレーニングし、先生たちの予防接種に関する知識・関心を高めることになりました。

昨年9月に、我々は4省8県の現場を視察し、現状を調査しました。そこで分かったことは、実践されている様々な研修が果たしてどれだけの効果があるのかということでした。多くの人を一堂に集めて、講義

する従来のやり方は、教えた内容の5%位しか学ぶことができないと言われています。回数や参加者数で研修を評価する時代はとっくに終わっています。そこで我々は最近開発の分野で広く用いられている「研修サイクルマネジメント(TCM)」の手法を導入し、これを用いた研修を甘肅省・慶城県と寧夏・隆徳県で行いました。両者ともに、参加者は、衛生と教育併せて約30名で、プロジェクトで作成した「研修マニュアル」を用いながら、各自が自分たちの現場での研修計画を作成し実践することになりました。参加型で、グループワークを取り入れたワークショップでしたが、それぞれが活発に議論に加わり、殆どの人が満足し、このようなやり方を学びたいという声を聞くことができました。

TCMは、計画(Plan)、実施(Do)、評価(See)、フィードバックのサイクルを繰り返すことによって業務の改善を目指すもので、研修だけではなく殆どの分野で応用可能な手法です。この手法が普及し、研修成果があがり、予防接種事業が改善されることを期待しています。

★プロジェクトホームページもご覧ください！↓

<http://www.jica.go.jp/project/china/0602072/news/general/20100722.h>

(ワクチンプロジェクト:建野正毅)



自分のアイデアを全員の前で発表する参加者
(寧夏回族自治区・隆徳県にて)



プロジェクトで作成した接種証マニュアルの内容に関しグループで検討。
ここで出されたアイデアを次回のマニュアル改訂版に生かす予定
(甘肅省・慶城県にて)

寄稿コーナー

上海万博シリーズ 第4回目 ～ヨーロッパ館～



* スイス館

ご存知かもしれませんが、愛知万博の時、スイス館のテーマは「山」でした。地形的な特徴で、文化の象徴でもある「山」を自然との共存と位置付け、山の持つエネルギー、力強さ、静けさ、癒やしさを体験してもらうことを目的としていました。今回もその考えを継続し、また人類と自然の未来が検討されています。

スイスパビリオンは104の案から選ばれた「革新を重ね、高品質の素晴らしい生活を追求する」という現代スイスの特徴を最大に表して、またスイスの未

来に向け、将来性と持続発展可能の理念も示した作品だと言われます。

空から見下ろすと、アウトラインは構想中の未来世界です。総面積4000平方メートルで、未来への美しい憧れに満ちています。スイス館は持続可能な発展可能の理念を核心にして、自然とハイテクを創造的に結びつける展示でした。開放的な空間で、一番外側の天幕は主に大豆繊維からなり、発電できるだけでなく、自然分解できるものだそうです。

遊び心があふれるスイス館は、コントラストを強調し、中国の陰陽原理を運用して、屋上に芝生の広がる巨大庭園を作り上げています。館内を抜け、屋上空間を一周できるゴンドラが取り付けられていました。大きなパビリオンをさらに高い位置から眺められる絶好のスポットで、さながら遊園地気分を満喫できます。参観者を、ストレスがたまる都市から喜ばしい自然世界に運ぶ、スイスの美しい自然風景と都市空間の融合を感じさせます。(観覧車は1時間当たり3500人を運送でき、1台に4人乗れます。雨の日でも正常に運行できるそうです。) (所員 宿因)

* フランス館



ついに万博が中国で開催されることになりました。母国で万博を見られるのは一生に一回のチャンスかもしれませんので、何が何でも見に行きたいと思いました。夏休みは観光客が非常に多いので、端午節(今年は6月中旬)を利用して念願の上海万博に行きました。

サウジアラビア館や日本館はとても人気があり、入口は長蛇の列でした。ヨーロッパのいくつかのパビリオンに入りましたが、私にとって最も印象深かったのはフランス館でした。

入館すると立派なルーフガーデンがあり、そこから美しい黄浦江が一望できます。素敵な花と緑植物に囲まれたレストランがあり、本館の中に入ると壁に印象派の絵がたくさん展示されています。レストランは全面ガラス張りで、シェフが忙しそうに調理している様子や、できあがった美しい料理もよく見えました。有名なブランド品の展示区やデザート売り場も華やかでした。最初から最後までフランスらしい芸術的な雰囲気を楽しめました。

それぞれの国のパビリオンはそれぞれに特徴があります。観光客が多くて全てを見ることはできませんでしたが、中国で開催された万博へ行けたこと、それだけで私は大変満足しました。

(所員 韦娜)

赴任者紹介コーナー

業務調整員 横堀慎二

～日中協力地震緊急救援能力強化計画プロジェクト～



日中協力地震緊急救援能力強化プロジェクトの業務調整員として、7月中旬から勤務を開始しました横堀慎二と申します。本プロジェクトは応急対応分野、救助分野の能力強化を目的とした人材育成プロジェクトです。これまでの人材育成プロジェクトでの経験を生かし、プロジェクト推進のお手伝いができると思っています。すでに救助分野では長期専門家が赴任し、着実にプロジェクトを推進しています。今後、チーフアドバイザーを迎え、本格的にプロジェクトチームが動き出すこととなります。業務調整員として、プロジェクト成果発現のために、日本側、中国側の双方の情報収集・調整の中で少しでも貢献できればと思っています。私はこれか

らも「忠恕」の心を大切に、そして日中協力を仕事として携われることに感謝し、業務を遂行していきたいと思っています。

今後皆様とさまざまな形で「つながり」をもち、仕事が進められればと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。
(業務調整員 横堀慎二)

China Cool!

中国酷！



酔い止めシップ

日本で見たことのない
乗り物の酔い止め用湿布です。

漢方薬を使っているようで、始めは効果があるのか疑っていましたが、旅行に行く時バス酔いをしたある先生が帰りにこれを使用したところ、バス酔いをしなかったそうです。

さすが漢方薬の国 ☆

私もよく乗り物酔いをするので、次回はこれを使ってみたいです。

(青年海外協力隊貴州民族学院 日本語教師 高橋優貴)